

# 小麦のカリ肥料施用による放射性セシウムの吸収抑制

福島県農業総合センター 作物園芸部・畑作科

事業名 放射性物質除去・低減技術開発事業

小事業名 カリウム等による吸収抑制技術の開発

研究課題名 畑作物のカリウム等による吸収抑制技術の開発

担当者 竹内恵

## I 新技術の解説

### 1 要旨

小麦では、カリ肥料による放射性セシウム吸収抑制効果が今まで確認されておらず、効果が判然としなかった。そのため、カリ肥料の施用量を前年より増やし、放射性セシウム吸収抑制試験を行った。

(1)放射性セシウム濃度が異なる小麦栽培ほ場(センター内普通畑、水田転換畑、現地水田転換畑)において、カリ肥料の成分量をaあたり1kg、10kg、およびカリ肥料+堆肥をあわせて12.5kgの区を設定し、小麦子実の放射性セシウム濃度を検討した。

(2)センター内普通畑では栽培後土壌の放射性セシウム濃度は1,700~1,800Bq/kg、子実の放射性セシウム濃度は0.9~1.9Bq/kg、センター内水田では栽培後土壌の放射性セシウム濃度は1,800~2,000Bq/kg、子実の放射性セシウム濃度は2.0~11.6Bq/kg、現地水田では土壌の放射性セシウム濃度は3,600~5,200Bq/kg、子実が1.1~30.1Bq/kgであった。

(3)土壌の交換性カリ含量が高い区ほど子実の放射性セシウム濃度が低下した(図1)。

(4)小麦の生育や品質(等級)は処理間で差が見られなかった。

以上のことから、カリ肥料等を施用することにより土壌の交換性カリ含量を高めると、小麦子実の放射性セシウムの吸収が抑制されることがわかった。

### 2 期待される効果

(1) 小麦の放射性セシウムの吸収抑制対策としての活用が期待できる。

### 3 活用上の留意点

(1) 今回の試験は経根吸収による放射性セシウムの吸収抑制対策である。

## II 具体的データ等

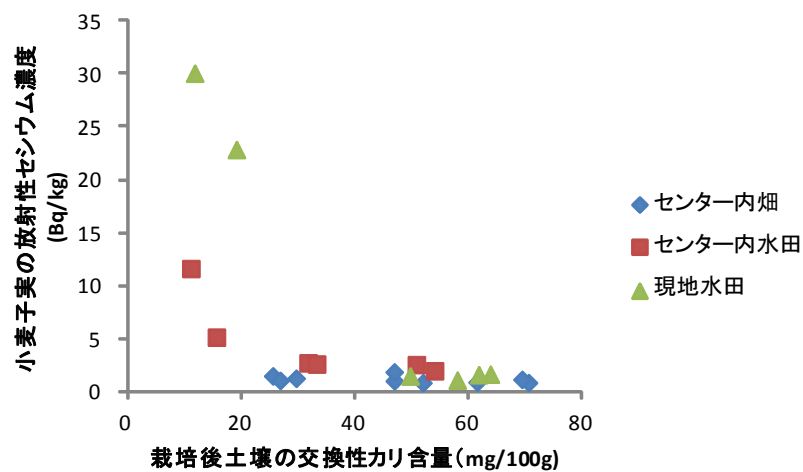


図1 栽培後土壌の交換性カリ含量と小麥子実の放射性セシウム濃度

\* 小麥子実の水分は、出荷規格である12.5%に補正した。

## III その他

### 1 執筆者

竹内恵

### 2 実施期間

平成25年度

### 3 主な参考文献・資料

- (1) 平成25年度農業総合センター試験成績概要